

# 医療安全管理室の状況

## (1) 年間目標

- 服薬自己管理の体制を整える。
- 医療安全マニュアルの見直しを行う。

## (2) 主な取り組み

### 【医療安全推進会議】

- 1) 血管造影呼び出しフローチャートを作成した。
- 2) 「人間ドック後のお知らせ」を変更した。
- 3) 「医療用麻薬の説明・同意書」を「手術・検査・処置説明書・同意書」と同じ様式にした。
- 4) 新規同意書の作成において医療安全管理室で審査承認し、医療安全推進会議で報告することを決定した。
- 5) 自己血貯血の研修会を開催した。
- 6) 心筋生検の説明・同意書に死亡率を記載することを決定した。
- 7) 離床センサーの使用に関して、看護記録において統一した言葉を使用することを決定した。
- 8) 集中治療における延命処置中止の際の流れについて項目変更を行い、倫理委員会へ諮り、当院は抜管を行わず、人工呼吸器の中止とすることを決定した。
- 9) 心臓カテーテル検査のチェックリストの変更を承認した。
- 10) 胃管挿入に関しては同意書の作成は行わず、マニュアルを遵守することとした。
- 11) 集中治療における終末期について本人の意思が文章ではっきりしている場合において、医療安全管理室で相談を受け話を進めるとガイドラインに記載した。
- 12) MRI予約票の絶食時間を自動計算で記載できるよう変更した。
- 13) 手術・検査・処置説明書について各科へ確認し、20項目の説明・同意書を削除した。

### 【医療安全担当者会】

- 1) 指さし呼称の啓蒙・指さしラウンド項目と評価者の見通し・ラウンドのフィードバック
- 2) 年4回の研修会開催
- 3) 内服自己管理に関する問題点の抽出と確認方法の体制づくり
- 4) 服薬自己管理チェック表の見直し
- 5) 医療安全マニュアル、医療機器安全管理マニュアルの追加修正
- 6) 5S活動の啓蒙・実践・評価による1コーナー以上の定着
- 7) 医療安全研修会の計画・運営
- 8) 院内医療安全情報の配信
- 9) 日本医療機能評価機構からの医療安全情報を院内LANで配信

### (3) 活動実績

#### 1) 会議・委員会開催実績

委員会等名	開催実績
医療安全推進会議	12回
医療安全担当者会	11回

#### 2) 教育研修実績

(参加人数)

	内 容	担当者・講演者	対象者	医 師	看護師	その他
4 月	新赴任医師・研修医 医療安全研修会	医療安全管理部長 医療安全管理者	新規採用職員	30名		
	新任研修医研修	医療安全管理部長	新規研修医	10名		
	新人看護師研修	医療安全管理者	新規採用看護師		23名	
	新任職員研修会	医療安全管理者	新任採用看護補助者			2名
6 月	前年度インシデント報告	医療安全管理室長	全職員	76名	470名	227名
7 月	診療録・看護記録の必要性	損保ジャパン	医師・看護師他	68名	338名	65名
9 月	情報管理について	情報管理課 課長	全職員	76名	463名	228名
	拘縮姿勢における危険性	整形外科医師	看護師・看護補助者・ 介護士		276名	
	看護補助者 医療安全研修会	医療安全管理者	全看護補助者			20名
3 月	新任事前研修	医療安全管理者	次年度新規採用職員		21名	11名
随 時	職場復帰 中途採用職員研修	医療安全管理者	看護師 看護補助者	7回開催		
6・9月	看護部教育研修（レベル別）	医療安全管理者	看護師	4回開催		

#### 3) ラウンド実績

- ・院内安全ラウンド 302回/年
- ・部署定期ラウンド 245回/年
- ・分析事例再発防止ラウンド 61回/年
- ・医療安全地域連携相互ラウンド

富山労災病院（加算①）：10月7日（富山労災病院評価）10月29日（当院評価）

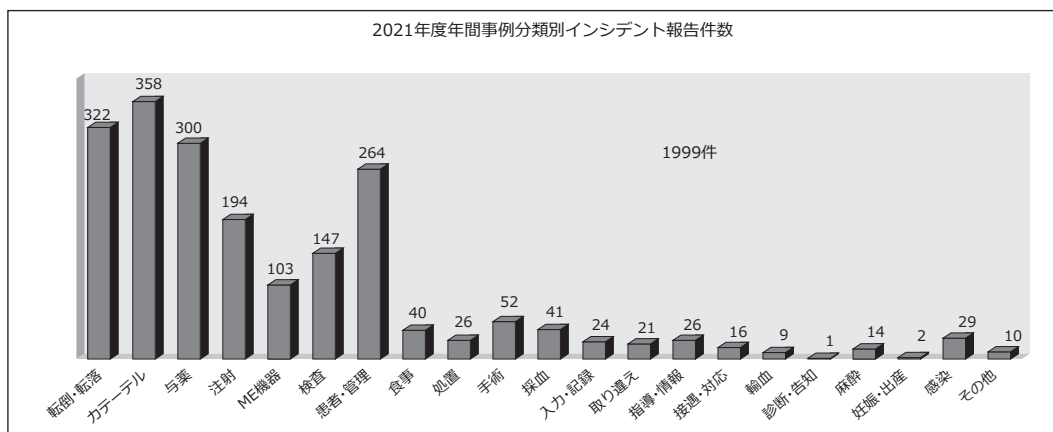
あさひ総合病院（加算②）：11月4日（あさひ総合病院評価）

### (4) 目標に対する結果

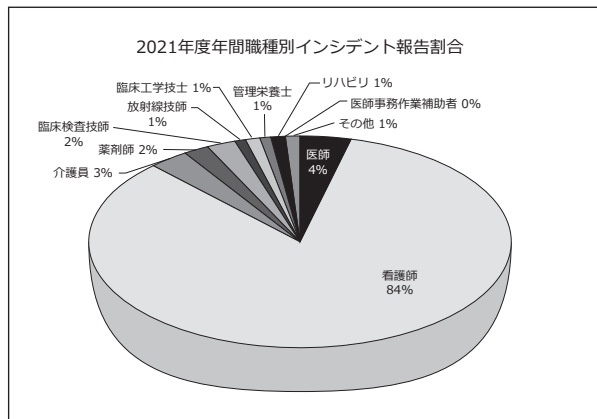
- ・内服自己管理に関する確認方法の体制を作った。
- ・服薬自己管理チェック表を修正した。
- ・医療安全マニュアル、医薬品の安全使用のための業務に関する手順書、医療機器安全管理マニュアルの内容を見直した。

#### 1) インシデントレポート報告

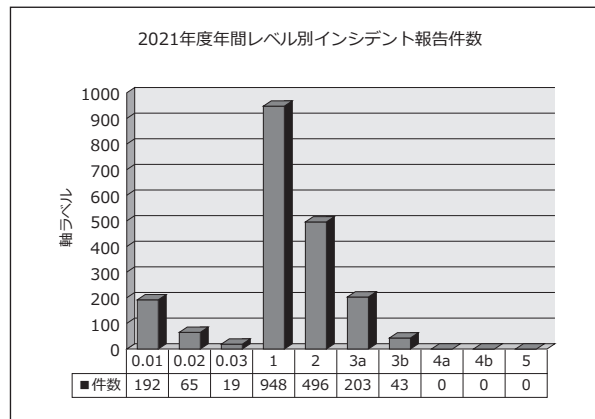
##### ①項目別報告件数（総計 1999件）



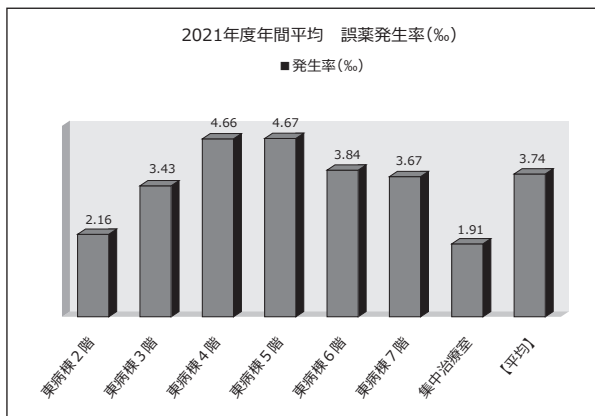
## ②職種別報告件数



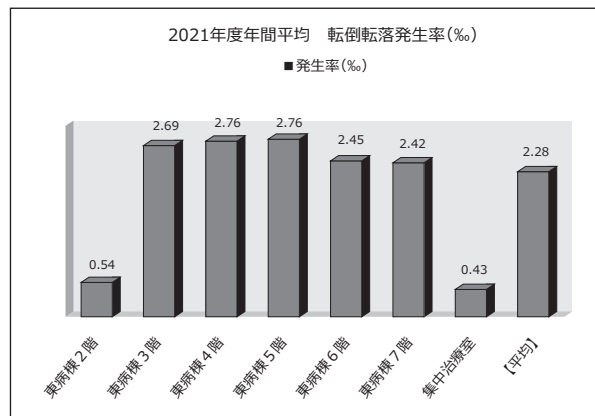
## ③レベル別報告件数



## ④誤薬発生率



## ⑤転倒転落発生率



インシデント報告件数で最も多いのが転倒転落とカテーテルで、合わせて全体の34%を占めている。

高齢化や認知症を背景に入院、手術による環境の変化が影響していると考えられる。

転倒転落においては、0.22%増加しており、高齢化や認知症が影響している。転倒による重大事象にならないための取り組みが必要である。

誤薬発生率においては、0.23%減少しており、今後も確実な確認行為の取り組みが必要である。自己内服管理における薬剤管理体制を整えたが、今後評価が必要である。